



#2

地域とつながる

お祭りごっこ!!
～みんなでつくる凸凹まつり～

レッツは2021年、福祉や企業、まちづくりの担い手が、共に対話し、商業だけではない新しいまちのあり方を模索するプラットフォーム「浜松ちまた会議」を立ち上げた。「福祉」を軸にしたネイバーフッドシティ構想を掲げ、誰もが安心して暮らし、生活できるまちなかのあり方を勉強会を通して模索してきた。そして今年度は、浜松ちまた会議とレッツが協働し、「楽しいことを通じてつながる新しい人間関係」をテーマに、「お祭りごっこ!!～みんなでつくる凸凹まつり～」を開催。このイベントの肝は、多くの人を巻き込み、お祭りをつくるプロセスの中で出会いやつながりを生み出したことだ。3ヶ月にわたり制作した巨大張子（通称：凸デコ）作りには124名の方が参加し、当日の来館者数も1500名に上った。「お祭りごっこ!!」を通じて、どのような出会いと葛藤と人間関係が生まれたのか、ここでその活動を振り返る。

主催：浜松ちまた会議

共催：認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ・株式会社 HACK

支援：アーツカウンシルしずおか

▽解!!

まつりイベント に向けていこう

楽しさ

意義



人が集まる
動機

人間関係が作れるかも??

(新しい人間関係を作り
新しい地域を作る
地域の輪を
つなぐ)

これは
必加した
その後
の活動
に発展!!

付付する!

新川モールで町金踊りと
スケートパークと子供各種お祭り
出店(半分以上お祭りと関係)のイベント
アトラクション(観覧車など)

① 太千代グループを育ていく流れ

・運営に重要な部分を作る係



紙の袋やちり紙を耐水紙で作ってもらう係

または上記のようなWSを株式会社で運営するグループを募集

かたがたな仕事を人が集まってる
コミュニケーションが生まれる←人間関係が
できる??

(お祭りな
お祭りな
お祭りな)

人間関係を
作る方が
いいと思う
ので

② 祭りイベントに向う期待感や未来の地域づくりの
イメージを共有していく流れ プレイイベント

プレイイベント例:金部 他に足利の曲と歌を教える

・トークイベント 先達事例
・音楽のワークショップ
・スケッチ体験

毎回出て
くる話と
入れて

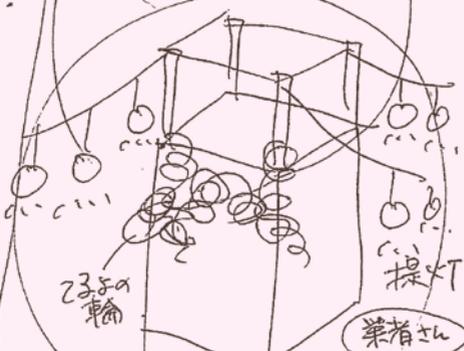
この後も続く人間関係

とにたせのしやう

参加者

この人たちが
動くところが
作り出す

まつり



まつり
イベント

活動
増

活動
増

活動
増

活動
増

プレイイベント

プレイイベント

プレイイベント

プレイイベント

②

スケッチ

スケッチパーク?

DJ
イベント?

(福祉イベントに
参加する)

利用者は至って無料か
参加者として入れてもらう

凸凹まつり 年間スケジュール

日付	できごと
7月17日	凸ってどう作る！？試作①
8月12日	凸つくり第1回「凸制作！キックオフ！」
8月18日、19日	凸つくり第2回「ベテランに学ぶ凸(デコ)作り基礎レクチャー」 講師:現役浜松北高校生
8月19日	浜松盆部さんに踊りを教わろう①(講師:浜松盆部)
8月25日、26日	凸つくり第3回「こんな凸デコが作りたい！」
9月1日、2日	凸つくり第4回「ヘルマウス、あらわる！」
9月2日	NU-TRIAさんのスケートボード体験会(講師:NU-TRIA skatepark)
9月8日、9日	凸つくり第5回「マスタープラン！」
9月15日、16日	凸つくり第6回「家内安全ヲ～制作開始！」
9月22日	凸つくり第7回「チラン配りの金曜日！」
9月29日、30日	凸つくり第8回「～晩夏の夜の凸～」
10月6日、7日	凸つくり第9回「いよいよ大詰め！」
10月7日	浜松盆部さんに踊りを教わろう②(講師:浜松盆部)
10月13日	お祭りごっこ！！みんなで作る凸凹まつり 前夜祭
10月14日	お祭りごっこ！！みんなで作る凸凹まつり

お祭りごっこ！！ みんなで作る凸凹まつり

お祭りは日本の伝統行事として、古くから地域のつながりをつくり守る役割を果たしてきました。そんな伝統行事をごっこ遊びのように、ゆるくアレンジしたのが「お祭りごっこ」です。

性別、属性、障害の有無、文化の違いに関わらず同じ地域を共にするみんなで作っていきます！ものづくり、音楽、盆踊り、スポーツなどを様々なコンテンツをミックスしつつ、楽しいことを通じて新しいつながりをつくることを目指しました。

8月から巨大張り子凸デコ制作や様々なプレイベントを開催しました。

イベント概要

日時：2023年10月13日(金)18:00～/10月14日(土)11:00～18:00

会場：新川モール(浜松市中区田町 230-28 遠州鉄道「第一通駅」高架下南)

内容：巨大張り子凸デコ展示、お祭りDJ・ライブ、盆踊り、スケートボードパーク、
わなげ、わたがし、出店などなど！

主催：浜松ちまた会議 / 共催：認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ、株式会社 HACK / 支援：アーツカウンシルしずおか、東アジア文化都市 2023 / 後援：浜松市

スケジュール・内容

○10月13日(金)18:00～前夜祭

募集したメンバーが制作を続けてきた巨大張り子凸デコが、いよいよ会場にお目見えます！また、全国に広がるDJ盆踊りの火付け役、岸野雄一さんに地元墨田区での様々な取り組みについて伺い、楽しさを通じた地域のつながりについて考えます。

<スケジュール>

- 18:00 岸野さんのDJタイム
- 18:30 巨大張り子凸製作メンバーお披露目
- 18:45 岸野さんの活動紹介&トーク
- 20:00 閉幕

○10月14日(土)11:00～18:00

お祭りごっこ！！～みんなで作る凸凹まつり～

1. 巨大張り子凸デコ展示
2. お祭りDJ・ライブ：DJ吉沢 dynamite.jp / 珍盤亭音楽師匠 / ハマサビエンス
3. 盆踊り：浜松盆部
4. スケートボードパーク：NU-TRIA skatepark
5. 出店：たこ 八珍(たこやき) / 出張！ちまた公民館(フリースペース) / いもねこショップ(手作りクッキー) / Green Cog(わなげ) / プスプス by ZING(カラフルお面づくり) / わたがし etc…

<スケジュール>

- 11:00 会場
- 13:00 NU-TRIA SK8ショー1
- 14:00 浜松盆部(盆踊り) / ハマサビエンス(Live)
- 15:30 NU-TRIA SK8ショー2
- 16:00 DJ 珍盤亭音楽師匠
- 16:45 DJ 吉沢 Dynamite.jp
- 18:00 閉幕

最新情報は
ウェブサイトもチェック!
QRコード

お祭り気分!! みんなで作る 山王まつり

2023.10.13 fri. 14 sat.
新川モール 13 fri / 18:00-前夜祭 入場 無料
14 sat / 11:00-18:00

浜松市中区田町230-28 遠州鉄道「第一通り駅」高架下南側

巨大張り子凸デコとスケートランプ凹ゴをかこんで、
みんなで踊って楽しもう!

キッチンカー等の出店、お楽しみイベントもたくさん!

お問合わせ 認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ
電話 | 053-451-1555 住所 | 静岡県浜松市中区遠見町314-30
メール | hamamatsu.chimatakaig@gmail.com
| 主催 | 浜松市まちづくり協議会 | 共催 | 認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ、株式会社HACK
| 支援 | アーツカウンシルしずおか | 協賛 | 浜松市

東アジア文化都市
2023 静岡県
Culture City of East Asia
2023 SHIZUOKA

アーツカウンシルしずおか
ARTS COUNCIL SHIZUOKA

お問い合わせ先とは
「浜松市まちづくり協議会」は福祉、企業、まちづくりなど、様々な関係の個人や団体が集まるプラットフォームです。浜松市まちづくり協議会が主催する様々な事業をおこなっています。

「アーツカウンシルしずおか」は、まちづくりや観光、国際交流、福祉、教育、産業など、社会の様々な分野と文化芸術を結び付け、社会課題への対応や地域活性化を推進する市民参加型の創造的な活動を支援します。











肩書きや所属を抜きに、わたしたちは、 この街で、出会えるのか

浜松ちまた会議と「お祭りごっこ!! ～みんなで作る凸凹まつり～」 の実験

「浜松ちまた会議」はコロナ禍を契機として、2021年にクリエイティブサポートレッツ（以下、レッツ）主導で始まった、福祉、企業、金融、NPO、まちづくりなど、様々な職種の担い手たち40団体・個人が集まるプラットフォームだ。浜松の中心市街地で、商業だけではない、ひとりひとりが安心して暮らし、生活することができるまちづくり、「福祉を軸にしたネイバーフッドシティ」の実現を掲げ、浜松まちなかの新しいあり方を提案、勉強会や派生事業をおこなっている。

対話を続ける中、2022年度に開催した、浜松ちまた会議シンポジウムの全体トークで、「肩書きや所属を抜きにして、ひとりひとりが繋がれるコミュニティが欲しい」という声が上がった。また「地域の祭りには個人の違う一面に出会う場面がある」といった声も上がり、2023年度に浜松ちまた会議メンバーを軸に祭りを開催してみようという機運が高まった。そこで、レッツと浜松ちまた会議が協働して、今年度、アーツカウンシルしずおかの支援を得て、株式会社 HACK と共催で開催したのが「お祭りごっこ!!～みんなで作る凸凹まつり～」だ。

凸凹まつりのテーマは「楽しいことや時

間を共有することを通じて、所属や肩書きを抜きに会い、つながり、新しいコミュニティをつくる」。そしてその対象になるのは、浜松中心市街地に住み活動する「生活者」の方々だ。実際にここ数年で中心市街地にはマンション建設は進み、高齢者施設やデイサービスも増えている。また、まちなかだからこそ、単身者や外国籍の方、生活保護の方など多様な人が住んでいる。そして、こういう方々は既存の「まちづくり政策」の文脈では見落とされている。

では、こうした人たちにどのようにアプローチすればいいだろうか。そこで考え出されたのが、「お祭りごっこ」を創り上げるプロセスの中で様々な住民を巻き込んでいく、という実験だ。そこで祭りの軸に、巨大張子（通称：凸デコ）をつくる作業をおき、8月～11月の3ヶ月間定期的に公開制作を行った。単純作業と「とにかく、おっきい凸デコをつくる!」という子どもでもわかる目標で、老若男女、誰でも参加できる仕掛けを作ろうとしたのだ。

また SNS では届かない住民を巻き込むために、「凸デコ作り募集!」という2万部近いチラシ配りも実施。実際に、レッツメンバーが真夏の溶けそうな炎天下の中、マンションを一軒一軒ポスティングをし中心部の各施設に配下した。そして、自治会に挨拶にいたり、現役高校生のデコ作りレクチャーを開催したり、NU-TRIA スケートパークさんや浜松盆部さんと協働して、プ



イベントを開催したりと、まさに地元で活動する団体・個人たちと地域住民とのつながりを、いちからつくることを実験してみたのは大きな一歩だった。

祭り当日は、真ん中に巨大凸デコが設置され、DJ 盆踊りやスケートパーク、ライブ、出店などさまざまな催しが開催され、1500 名にのぼる来場があった。何より、子ども、学生、障害がある人、近所の方、さまざまな人が混ざる空間が生まれ、DJ 盆踊りで会場にいる人々が一心不乱に踊っていた様子は、このまちの新しい風景をつくったかもしれない。

一方、課題も残った。凸デコ制作の総参加者は 124 名と、多くの方に参加していただいた。しかし、多大な労力を広報にかけた割には、実際に全くの新規で制作に足を運んでくれた方は少なかった。ゲストの岸野雄一さんがトークでおっしゃられていた「祭りは SNS ではなく口コミでつながる」というのはまさしく本当だったのだ。だが、広報によってもたらされた嬉しい出来事もあった。凸デコ制作のための「チラシ・新聞ください」という文言をみて、たけし文化センター連尺町やちまた公民館周辺のご近所さんや自治会の方、NU-TRIA スケートパークメンバー、さらには遠方から、50 名以上の方が古紙を届けてくれたのだ。実際に制作には参加せずとも関わってくれる人はいる。その関わりしるの幅をいかに大きく設定できるかが今後の課題だと痛感した。

今回のお祭りは 0 回目の実験だ。失敗したこと、うまくいかなかったこと、成功したこと、たくさんの経験が詰まっている。私がいちばん印象的だったのは、デコ制作が佳

境の 10 月前半、近所のお菓子屋さんがたくさんマフィン差し入れしてくれたことだ。そこには「お祭りや制作にはいけません、チラシ見ました。応援してます」というメッセージが書かれていた。お菓子屋さんとつながる知り合いがいたわけではない。本当にチラシをみて、おそらく連日続く、公開制作の様子を見て、応援してくれたのだ。まだ直接的にはつながっていないが、「活動を見てくれている人がいる」という実感は私たちにとても勇気を与えてくれた。実際に「お祭りごっこ」に参加してくれた方々だけではなく、こうした水面下で興味を持ってくれた、共感してくれた方々をいかに巻き込むか、そしてつながりを作っていけるのか、浜松中心部の無数の点と点を結んでいけるのか、それが来年度の浜松ちまた会議のテーマになりそうだ。

私たちは、普段、浜松のまちなかで活動する時、「〇〇会社職員」や「××協議会所属」といった所属や肩書きを背負って人に出会い、ビジネスパーソンとして振る舞うことが多い。しかし一方で、私たちは「生活者」として母であったり父であったり、無名の肩書きや所属を外した違う一面をもっている。こうした、違う一面で、人々が出会い、つながり、安心して暮らせるネイバーフッドシティをつくるには、文化の力が必要であり、そこには、「楽しいことを共有した時間」という感覚がきっと必要だ。さらに水面下で出会う人を諦めない。マフィンをくれたり、古紙をくれたりする方々こそ、つながっていく、この継続が大切なのだ。「お祭りごっこ」と浜松ちまた会議の試行は来年度も続いていく。

浜松ちまた会議 久保田瑛

#2 地域とつながる

凸デコづくり 制作記

column

「お祭りごっこ！！～みんなで作る凸凹まつり～」では、地域の皆さまと一緒に独自の凸デコを制作することを試みた。制作メンバーにはもちろん、運営側にとっても初めてのことを手探りで進めていく様子を日々凸長（作業統括者）がまとめた日誌を収録する。

*凸デコとは

静岡県立浜松北高等学校の学校行事内で製作される巨大オブジェのこと。ベテラン生徒達が計画段階から監修し、各グループのリーダー（凸長）の監督のもと上級生と下級生が協力して制作、運動会で展示され完成度を審査で競います。

今回凸凹まつりではこの取り組みを参考にさせていただきながら、「人が集まって協力して作業する」状況をつくる仕組みとしてのオリジナル凸制作を行いました。



8月12日(土)

「凸(デコ)作り!!」始動っ!!

集われた皆様と、勇気をもつての第一歩っ!!

境界線「凸線」を越えっ!遂にわれわれは…

※※※凸メンバー!※※※と成ったのですっ!!

…わかりますか?

凸メンバーと成ったわれわれは、遂に!「凸作り!!」を開始したので
すっ!!!!!!

・われわれの凸とはっ!?

・巨大オブジェって如何なる作り方が存在するのくぁっ!!!

・んでっ!巨大オブジェ凸をお披露目するっ、会場の新川モールは如何様
なる所っ!?!を、集った皆様でド真正面っ!!ド直球にっ!受け止めた次
第でありますっ!!

そしてっ!(ここ大事。)大いなる第一手ッ!!

自らの手を動かしてっ、オブジェ(立体物)は如何にして創作し得るの
くぁっ!!

と、思い思いに手を動かしてっ!!遊んでみましてゆわっ!!!!!!

この第一手ッ。とっても大きな一手なんすよ…(ファッ)。

この一手からっ、われわれの凸は!今まさに

ズンザカズンザカ登り始まったわけでありまっす!!!!!!

.....



8月18日(金)、19日(土)

現役浜松北高生凸長(デコチョウ)に学ぶ!

「凸作り!基礎レクチャー!!」

脈々と受け継がれていった先人達のエネルギーと

今を生きる若人の新たな息吹と共にっ

ミルミルうちにモコモコと立体造形物がっ

目の前で叩き上がってゆきましたっ!!

「重力に逆らって立体造形…言うは易く行うは難し!!」

大変勉強になりましたっ!!

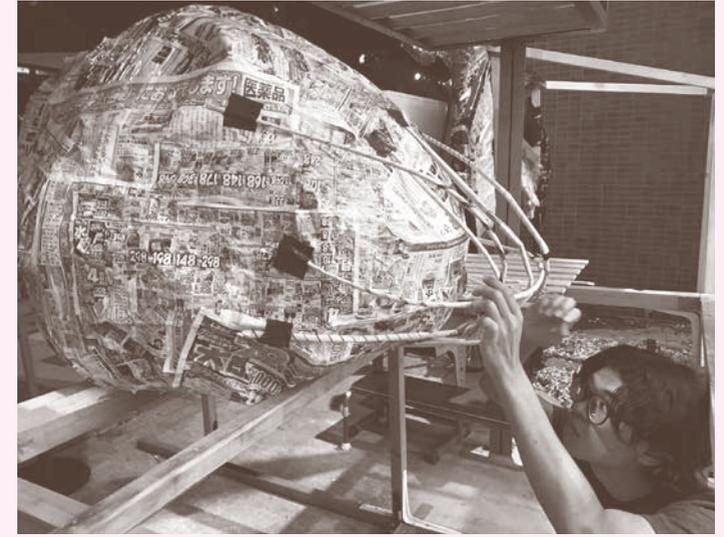
.....



9月15日(金)、16日(土)

凸マスタープラン「家内安全ヲ守 十二支之図「凸」」
に遂に着手した我々は想像を超える景色を目の当たりにしたっ！
腰を打ち砕き悶絶しながらも3Mを超える巨大凸を支える土台を
作り上げた我々は、きっとプリティに成るであろうお頭の制作にも突入す
るのであった!! 一体如何様なる景色が今後更に展開されていくの
くぁっ!! 乞うご期待っっっっ!!!!!!

.....



9月22日(金)

凸マスタープラン「家内安全ヲ守 十二支之図「凸」」
マスタープラン着手第二週目に突入した我々は、頭部の張り子作業、胴
体部の骨組み作りを行った！
徐々に全貌が見えだしてきた「凸」図面上解ってたけど、土台に胴体部を
乗けたら、思った以上の巨大さが現れて、ぬぬっ!と成ったのでありま
すっ。
道行くアベックの女性の方が通りすぎりに「…ここ、いつも何か作ってる
…」と言って去って行ったので、うん、良かった!!
明日は祝日の為、作業は休日っ! 果たしてっ! このペースでっ! 10月13日
14日の「お祭りごっこ! みんなでつくる凸凹まつり」に間に合うのくぁっ!
やヴぁいっ! かっ!!

.....



9月29日(金)、30日(土)

大いなる「凸エネルギー」が、我々の「潜在エネルギー」と直結し!弾けッ!
組み上がりッ!燃え上がった夜ッ!!そう…我々は「凸」そのもので在っ
たのである…(ファッ)

凸マスタープラン「家内安全ヲ守 十二支之図『凸』」

ご参加いただいた皆様と共に実につ!モーレツにつ!モリモリとっ!!

各部位が燃え上がり作り上がってゆくのでありましたっ!!

「作る」ってホントに素敵で面白いっ!出会った人と一緒に作ると、自分
の考えとFUSIONし、新たな発見と地平が生まれ実に面白いっ!!

沢山の人で行う「ものづくり」の楽しさを再発見した夜となりましたっ。

.....

10月6日(金)、7日(土)

「凸作り!」

8月12日(土)に開始し2ヶ月間、集った皆様と

積み上げっ折り重ねっ登りっ弾け上がりっ飛びっ跳ねっ回りっ

あれやこれや、こんな考えあんな考えを目の当たりにし、インスパイアされっ、

未知の造形へと進み、面白き彼方へ導かれる、

そんな「凸物語」の旅路がいよいよもって佳境を迎えようとしておりますっ。
集い共に制作いただいた皆様方、心より感謝申し上げます。

そして沢山の古紙や新聞紙、段ボールをご寄付いただいた皆様方、温
かいお言葉や応援していただいた皆様、道行きながら「ここ、いつも何
か作ってる…」とこぼしていかれた方や「ほへえっ」と興味深そうに横目
で見たいかれた皆様にも、心より感謝申し上げます。

気高く聳え立つ素晴らしき巨大オブジェ「凸」は今まさに出発の時を迎え
ようとしておりますっ。



.....

佐藤啓太

デコ作りメンバー募集!

2023年 9月12日(土)・13日(日)
 福道金澤土曜(2023年)
 17:30~20:30
 @たけし文化センター3階(浜松市中区津尺町314-30)
 参加費 無料

お祭り!
 みんなで
 凸凹まつり

**「お祭りごっこ! みんなでつくる凸凹まつり」
 凸デコ作りメンバー募集!**

「お祭りごっこ! みんなでつくる凸凹まつり」では、地域の皆さまの手をお借りしながら独自の凸(デコ)の完成を目指します。製作には多くの人手が必要です!一緒に製作して下さるメンバーを募集します。

凸(デコ)とは
 紙でできた大きな張り子の巨大オブジェです。骨組みに新聞等をガムテヤ糊で貼り着色してつくります。

デコのつくりかた

紙を糊でガムテープでとめて、全体を紙でくみます着色して完成!

巨大張り子(凸デコ)製作期間
 2023年9月12日(土)~10月13日(金)
 毎週金曜土曜17:30~20:30(祝日はお休みまします)
 @たけし文化センター3階(浜松市中区津尺町314-30)

完成したデコは10月13日(金)14日(土)に行われる「お祭りごっこ! みんなでつくる凸凹まつり」@新川モールで展示まします。お祭り詳細、参加方法はQRコードから! →

主催: 浜松市文化芸術 社名: NPO法人クリエイティブサポートレップ、SHACK
 運営: アーツカウンシル浜松
 連絡先: NPO法人クリエイティブサポートレップ
 電話: 0534511355
 メール: shomomura@shimizu-shi.ac.jp
 住所: 浜松市中区津尺町314-30

お祭り!
 みんなで
 凸凹まつり

2024年3月上旬松山ブンカ・ラボが主催する「スタ☆タン!!松山」に出かけた。レッツが企画した「表現未満、」をあつめたパフォーマンスを披露する「スタ☆タン!!」を、松山ブンカ・ラボにて、オリジナルの演目として実施されていてそれを見に行ったのだが、2度目となる松山訪問で感じたことをもとに現在レッツで推進している「福祉によるネイバーフッドシティ構想」について考察してみようと思う。

松山市は人口51.49万人。愛媛県の県庁所在地。四国地方では人口が最多で中国地方でも人口規模は広島市(119.4万人)、岡山市(71.95万人)に次いで3位である。財政状況指数は浜松0.85、松山0.76、広島0.81、岡山0.77となっている。しっかり調査したわけではないが、松山の中心市街地の印象は、商圏が広いにもかかわらず非常に充実している。例えば三越、高島屋といった大手老舗百貨店があり、ブランド店の出店も多い(ちなみに浜松には大手百貨店は1店もない)。

最近浜松市では観光やインバウンドに力を入れている。大河ドラマに便乗して大河ドラマ館が誕生し、浜松城の整備やホテル建設においてもそれを理由に推進している。しかし市民からすると唐突に始まった観光振興である。

松山に行って思うのは関東、中部圏からは交通の便が悪い。岡山から電車だと3時間もかかる。浜松からだだと電車で6時間。もちろん飛行機といった手段はあるが気楽に行ける距離ではない。しかし中心市街地の景観、松山城、道後温泉、路面電車、瀬戸内海と観光資源が充実している。今回松山城にもいったが、江戸時代以降、何度も火災や空襲に見舞われながらもほとんど元の形に再興している。そして、路面電車、道後温泉、松山城とどれも昔の名残がそのまま残されている。これは歴史や遺産を守り抜くという非常に熱意のある市民性だと感じた。

それに引き換え浜松は街中周辺にほとんど観光名所らしいものは残っておらず、どちらかと言ったらスクラップ&ビルドを好んでやってきた街だと言える。そんな街で観光が成立するのだろうか。

**お祭り!
 みんなでつくる
 凸凹まつり**

2023年10月13日(金)14日(土)
 @新川モール(遠州鉄道「第一通り駅」高架下南側)

大きな張り子オブジェ! スケートボードパーク! DJ披露! みんなで踊ろう!

出演(予定):
 DJ吉沢dynamite.jp
 珍堂亭楽師匠
 ハマサビエンス
 浜松盆部
 NU-TRIA skatepark

【イベント】
 ・ちまた公民館の日: 7月15日(土) 旗子を作ってみるイベント
 ・ちまた公民館の日: 8月19日(土) ペチカによる張り子作り基礎レクチャー & 浜松盆部さんによる「盆踊り練習会」
 ・NU-TRIAさんによるスケートボード体験会: 9月2日
 ・浜松盆部さんと踊ろう! 盆踊り練習会: 10月7日
 ・岸野一さんまわりのトーク&DJ: 10月13日(金)

新聞紙 広告チラシ
 ください!

053-451-1355 福道金澤土曜御通地下301号

大量段ボール! 急募!

浜松の特徴は、東京、大阪、名古屋といった首都圏に近い。そして気候が温暖で海も山もある。外部から人を呼び込む観光に力を入れるのではなく、そうした地形や地の利を利用して、とにかく市民が住みやすく暮らしやすい街を作り上げることに注力していくべきだと思う。そしてそうしたことを反映する中心市街地の作り方があるのではないか。とってつけたような観光資源をつくり出すのではなく、市民サービスとして街を考えてみるとまだまだできることはたくさんあるように思う。そして住みたくなる街、住んでいて安心して快適な街にしていくことも、立派な街のブランディングだ。

レッツでは2021年度から「福祉によるネイバーフッドシティ構想」を始めた。徒歩15分圏内に困った時に気楽に声をかけることができる人、助けてくれる人がいることは生きやすさや安心につながっていく。そうしたウェルビーイングな街を中心市街地で実装してみようという構想である。さらに文化を通して人と人をつなげていくことを試みる。

福祉というと、とかく障害者、高齢、子どもといった困りごとを抱えている人のサポートだと思われがちである。しかし本来、福祉は市民一人ひとりのことでもある。それを改めて考える機会をつくり出したい。

2022年度、街中に誰もが利用できる私設公民館「ちまた公民館」を始めた。また、2023年度は「お祭りごっこ!!～みんなでつくる凸凹まつり～」と銘打って、近隣の皆さんと共同制作しながら仲良くなる事業が始まった。これは今までの地縁、血縁ではない生きるためのコミュニティを、文化活動を通して作り出していこうとする試みだ。地縁、血縁に寄らないコミュニティづくりは、よそから来た人であっても幸せに生きていくセーフティネットにもなる。

今回の松山訪問は、浜松市の中心市街地に人を集め、お金を落とす人を誘致するといった従来型のまちづくりではなく、徹底的にウェルビーイングを追求していく街づくり、「福祉によるネイバーフッドシティ構想」は間違っていないと改めて思う機会となった。

久保田翠